

トランプ氏の理屈の誤り

トランプ大統領が第1期政権以降、繰り返し「日米安保は不公平」と言っている。日本の防衛費増を求めてきたのは単なるディールを超えたものがある。トランプ氏の理屈は「日本は米国から一方的な安全保障上の恩恵を受けてきた」「不公平だ、防衛費を増やして米国に恩を返せ」であろう。しかしこの理屈は完全に間違っている。

日本が冷戦期から今日までに、米国にとって重要なインド太平洋の安定のためにどれだけ貢献してきたかを思い起こしてみればいい。在日米軍駐留経費や海兵隊グアム移転経費を分担し、F15、F35戦闘機、トマホーク巡航ミサイル、P3C対潜哨戒機など高価な兵器体系を米国から購入した。

さらに集団的自衛権の行使を含む安保法制やガイドライン制定に腐心し、米軍艦艇・航空機のための整備・補修・修理、パトリオットミサイルのライセンスバック(米国のライセンスを活用し、部品の生産を日本が行って米国に提供)を進めてきた。いずれも日本

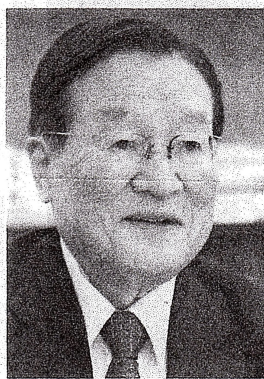
「安保ただ乗り論」にどう対応する

の防衛のためだけでなく、米国の要望に応じるために国民の貴重な税金を使ってきたのである。

日本の戦闘機はF15が2000機、F35が147機(現在はその半分以上を購入済み)で在日米空軍は2個部隊数十機、海兵隊は1万9000人(4000人がグアム移転の予定)で、日本の陸上兵力はその8倍、米艦艇数も日本の半分である。日本の防衛力が、インド太平洋における米国の安全と国益にいかん貢献してきたかを見ると歴然としている。

確かに日米安保条約上は日本が武力攻撃を受けた場合、米国が日本を守る事になっている。だが、日本の危機は米国の危機でもある。インド太平洋における日米同盟の抑止力が米国の国益にとっていかに重要であり、そのために日米同盟がどのような役割を果たしてきたかを認識すれば、大統領の発言は抑止論を理解しない不公平

正論



元防衛相

森本 敏

不満論者のたわごとでしかない。

欧州の安保環境より深刻

今、我々が考えるべきことはそれほど遠くない時期にインド太平洋が危機的状態になる可能性である。それは欧州の安全保障環境よりはるかに深刻になるであろう。日米間で防衛費増額の議論をやっている暇はない。今や、日本が考えることは防衛費を何%にするかという問題ではなく、何に防衛費を投じるかである。それは日本の防衛力を強化するだけではなく、

日米同盟の抑止力強化にいかん役立てるかである。そのためにはまず、日本の防衛力をさらに「広く」「速く」「早期に」機能させ、第一列島線と第二列島線に挟まれた広大な太平洋の防衛を万全にする必要がある。特に、日本の海域・空域における対応力を強化し、そのための防衛力を重点的に機能させ、無人システム(滞空・水上・水中)、宇宙システム、サイバー防御システムを強化して、最近取り組み出した反撃力による懲罰的抑止力だけではない、引き続き拒否的抑止力を一層、高める必要がある。

そのうえで日米同盟の抑止力強化を図るため、第1に日米共同開発を進めることである。特に①GPII(グランド・フェーズ・インターセプター 極超音速システム)②高等練習機と性能を共有する軽戦闘機③ゴルドン・ドーム(あるいはTHAADをベースにした迎撃用対空ミサイルシステム)④早期警戒情報衛星がその対象となる。

日米両国の抑止力強化

第2に日米共同生産をすすめる。①AMRAAM F35に搭載する空対空ミサイル②衛星コンステレーション③NATO基準に一致した弾薬・火器・ロケットの生産を図ることである。第3はインド太平洋で活動する米海軍艦艇・空軍機の整備・補修・修理やそのための諸施設の建設を一層強化すること。第4はインド太平洋における有志連合国に協力するために、①海洋監視レーダーの設置、海上輸送路の共同パトロール部隊②各国軍の共同訓練・共同演習のための訓練・教育施設③海底ケーブルの抗堪性維持に必要な施設整備④域内国の宇宙活動・サイバー防御活動のための共同指揮所⑤在ドイツ米軍基地にあるNSA/TU(NATOのウクライナ支援・訓練基地)のような支援基地の建設を行うことである。

第5に、在日米軍のために①米国の統合作戦司令部建設・インフラ整備②日米共同運用の基地・支援施設・訓練施設③抗堪性強化のための地下施設・格納庫・避難場所建設にかかる経費を分担する。

これらの役割分担を、米国側に「日米同盟の不公平性」解消のための努力と認識してもらうことが先決であり、米国側の要望を聞きつつ、進めていくことが不可欠である。要は日米両国の抑止力にそれぞれ有益な貢献であり、米国だけに任せるわけにはいかない分を日本が負担することによって、日米同盟を強化することである。

こうした防衛負担を地域の安定と、日米同盟のために広げていくことが米国の不満解消に役立つであらう。

(もりもと さとし)